

令和5年度 国富町立八代小学校 学校評価

【学校経営ビジョン】 優しさとたくましさをもち、「知」「徳」「体」の調和のとれた子どもの育成

【評価・評定の基準】 4点：よい 3点：だいたいよい 2点：もう少し 1点：よくない

課題	重点指導事項	評価項目	評価（3点以上の割合）↓			評価（得点）4点満点↓			自己 評定	自己評価の考察 （○成果 ◎改善策）	学校 関係者 評定	学校関係者評価コメント
			児 童	保 護 者	職 員	児 童	保 護 者	職 員				
学力 向上 対策 の 充 実	分かる授業作り	① 学校は、分かる授業を目指し、児童に達成感や成就感を得させながら学習をさせている。	92%	98%	100%	3.7	3.3	3.2	3.0	○ 授業の中でICTを効果的に活用することで、学習意欲を高め、児童同士の学び合いを深めることができた。 ○ 「レベルアップタイム」や「1日5題」などの習熟の時間を継続したことで児童の基礎的な学力の定着を図ることができた。 ○ 新聞を活用した学習を取り入れたことで、児童は様々な記事に触れ、そのことに対しての自分の考えを表現しようとする意欲が高まった。 ◎ 本を借りる冊数は増えているが、読書の習慣化までには至っていない児童もいる。今後は、家庭との連携をさらに深めて、読書意欲の向上に取り組んでいく。 ◎ 家庭での学習を充実させるために、保護者と連携をさらに図りながら取組を進めていく。	3.4	・ICT授業については、非常に良いと思う。時間が許せば、もっと進んだ活用ができるようになってさらに良いと思う。 ・学力については分からないが、ICTを活用している授業等を見ると、自分の時代とは大きく変わっていると感じる。 ・ICTの活用により、児童も楽しみながら興味をもって授業を受けていると思う。 ・新聞を活用した学習も視野が広がり、意欲が高まると感じる。 ・児童は、積極的に学びたい子もいれば、そうでない子もいるので、一つの教室で一緒に学ばせる今のやり方では限界があるものも分かる。 ・読書については、冊数競争ではなく、本当に自分が読みたい本をじっくり読むという方向の方が良いと思う。
		② 児童に、基本的な学力（読み・書き・計算）が身につけてきている。	76%	83%	83%	2.9	3.2	2.9				
	学力の定着と向上	③ 児童は、家庭での学習にしっかりと取り組んでいる。	85%	75%	42%	3.3	3.0	2.4				
		④ 児童は、話を良く聞き、姿勢よく学習に取り組んでいる。	71%	83%	58%	2.8	3.0	2.6				
	特別支援教育の充実	⑤ 学校は、一人一人が存在感をもてる教育を行っている。	85%	88%	100%	3.5	3.1	3.3				
	読書意欲の向上	⑥ 児童は、進んで読書に取り組むことができています。	60%	42%	67%	2.8	2.4	2.8				
命を 培 導 う 教 育 か な 充 人 実 間 性 を	基本的な生活習慣の定着	⑦ 児童は、時と場に応じた言動ができています。	81%	70%	67%	3.2	2.8	2.7	3.1	○ 地区児童会やバス指導を定期的に行うことで、児童は安全に登下校することができている。 ○ 本校の児童は、全般的に友達に優しく接することができている。 ◎ 児童の言葉遣いについては、全職員の共通理解をもとに、学校全体で一貫した指導に取り組んでいく。 ◎ 特別活動での話し合い活動や道徳科の時間を充実させることで、児童が自分自身や周りのことについて考える機会を増やしていく。 ◎ 教育活動全般における人権教育を充実させることで、さらに思いやりのある行動ができるようにする。	3.3	・道徳科の時間については、学校だけの勉強ではなく、家庭での生活の中で教育されるのが一番だと感じる。保護者に対して、お願い等されれば良いと思う。 ・人数が少ない分、友達との関係がより大切になってくると思うので、思いやりのある子に育ててほしいと思う。 ・学校にいつ何っても環境美化がされています。季節の花の中で児童たちも心豊かな優しい子どもに育つと思う。 ・この評価内容に関しては、学校だけではなく、保護者や地域の方々との連携が必要である。言葉遣いや思いやり、マナーなどは親の役割だと思う。 ・主体性と協調性、本音と建前など、場面によって使い分けることが大事だと感じる。
		危険予知・回避能力の育成	⑧ 児童は、通学路での安全やマナーをきちんと守り、自分の身を守るための判断力や行動の仕方が身につけてきている。	91%	88%	92%	3.6	3.1				
	人権教育の推進	⑨ 児童は友達や周囲の人に思いやりのある行動ができています。	83%	84%	100%	3.3	3.1	3.2				
	特別活動、道徳の時間の充実	⑩ 児童は、自分の考えをもち、話し合い、自分自身のことを見つめることができる。	81%	81%	75%	3.2	3.0	2.8				
	積極的な生徒指導の推進	⑪ 先生は、子ども一人一人を大切に、子どもに関する相談に適切に応じている。（いじめへの対応を含む。）	91%	84%	100%	3.7	3.0	3.5				
	望ましい教育環境の整備	⑫ 児童の学習環境や学校の環境美化が整っている。	79%	89%	100%	3.1	3.2	3.2				
教育育 の 充 健 実 康	基礎体力・運動能力の向上	⑬ 学校は、子どもの体力を高める取組に努めている。	84%	88%	83%	3.4	3.1	3.0	3.2	○ 持久走月間の設定や体力アップコーナーの設置により、児童が体力向上に取り組むやすい環境を整えることができた。 ○ 講師である栄養教諭との連携を図ることで、各学年の食に関する指導の充実を図ることができた。 ○ 学校保健委員会の開催や参観日での啓発を行うことで、保護者の健康に関する意識を高めることができた。 ◎ むし歯の治療等について、家庭間での温度差が感じられるので、今後も継続した啓発が必要となる。	3.3	・体力については、もっと持久力が付けられればと思う。 ・家庭で外で遊ぶ機会が少なくなっているため、難しい面もあると思う。 ・成長期の児童にとって大切な「食」は、「早寝・早起き・朝ごはん」という習慣により、身につけていることが喜ばしい。 ・保健に関することは、ほとんどが保護者の役割だと思う。 ・体力に関しては、八代小はバス通学の児童が多いので、体力アップの取組を多めにされることを期待する。
		保健・衛生習慣の定着	⑭ 児童は、「早寝・早起き・朝ごはん」や身だしなみなどの保健・衛生的な習慣が身につけてきていると思える。	79%	88%	83%	3.3	3.1				
	望ましい食習慣の形成	⑮ 児童は、「食」に関心をもち、望ましい食生活の習慣が身につけてきていると思える。	79%	97%	100%	3.2	3.3	3.3				
	むし歯治療率の維持・向上	⑯ むし歯治療率の維持・向上が図られるとともに、保護者間で保健に対する意識が向上したと思える。	81%	94%	67%	3.3	3.3	2.8				
地 学 域 校 に つ 開 か り た	家庭・地域との連携体制確立	⑰ 学校は、家庭や地域の教育力（人材や自然等）を生かし、家庭や地域との連携体制づくりに努めている。	88%	92%		3.2	3.3	3.3	○ 新型コロナの制約が緩和され、自然や地域のよさを学ぶ多くの体験活動に取り組むことができた。 ○ 学校便りの定期的な発行により、本校の教育についての啓発を継続することができた。 ◎ 保護者に、学校の教育活動をより理解していただき、家庭との連携をより深めるために、今後もホームページの充実を図るなどして、積極的な情報発信を継続していく。	3.8	・良く行われていると思う。 ・地域の方との交流等も多く取り組んでいると思う。 ・学校便りの発行により、子どもの居ない人でも学校の様子が分かってありがたい。 ・今後も、学校の運営方針等をしっかりと周りに伝えて学校を運営していただくことを期待する。	
		ふるさとでのよさを学ぶ活動の充実	⑱ 学校は、家庭や地域と連携した活動を行ったり、地域のよさを学ぶ体験活動を取り入れたりしている。	95%	100%		3.4					3.3
	家庭・地域への情報発信	⑲ 学校は、保護者・地域への情報発信を、よく行っている。	89%	100%		3.3	3.4					
総評と次年度に向けて		<p>◇ 本年度の取組に対する総評</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の学校評価では、評価項目と学校経営ビジョンとの関連を重視した取組を目指し実践・評価に努めた。その結果、全般的に見て、評価が向上している項目が多かったが、評価が低かった項目については、より具体的に継続性のある取組が必要であると考える。 <p>◇ 次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度は学校評価と経営ビジョンとの関連に加え、社会に開かれた教育課程を推進し、より地域と連携を図った教育活動を展開していく必要性を感じている。 										